

平成 20 年度事業報告

平成 20 年度事業計画の基本方針に基づき実施した事業の概況は次のとおりである。

1 会員状況について(別紙会員名簿)

(1) 平成 21 年 3 月 31 日現在の会員数

◎ 正会員 56 ◎ 特別会員: A団体 18・B個人 9

(2) 会員の異動状況

		平成20年3月末	平成21年3月末
正会員		56	56
特別会員	A団体	19	18
	B個人	11	9

○平成 20 年度退会

【特別会員A(団体)】… 1 団体 (三菱UFJニコス株)

【特別会員B(個人)】… 3 個人

○平成 20 年度入会

【特別会員B(個人)】… 1 個人

2 動物愛護週間事業

(1) 動物愛護週間中央行事への参加

動物愛護週間は、広く国民の間に、命ある動物の愛護と適正な飼養について理解と関心を深めるために設けられているもので、国及び地方公共団体は週間にはその趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めなければならないこと、また、その実施期間は毎年9月20日から9月26日までとすることが「動物の愛護及び管理に関する法律」第4条に定められている。

本年度も東京都内で開催された「動物愛護週間中央行事」に、国及び東京都、台東区並びに動物愛護団体等で構成する中央行事实行委員会に参画した。

(2) 平成 20 年度動物愛護週間事業の実施結果

平成 20 年度動物愛護週間中央行事は、屋外行事：9 月 20 日(土)東京・上野恩賜公園内 噴水池前広場、屋内行事：23 日(火・秋分の日)東京・国立博物館 平成館講堂で開催され、本会も「中央行事实行委員会」メンバーとして参画した。

- 【スローガン】 「いのち輝け人と動物の愛の輪で」
- 【キーワード】 “ まもれますか？ペットの健康と安全 ”

ア 9 月 20 日(土) 午前 11 時～午後 4 時

第 1 日は好天の下に上野恩賜動物園正門前の噴水池前広場に設けられた野外ステージでは、動物愛護セレモニーと動物愛護 4 団体実施の表彰式が、また、大テントでは愛犬しつけ方教室、聴導犬実演、動物をテーマとした紙芝居、そして、ブース、広場では各種こどもコーナーをはじめとした各種催しが、さらに、上野動物園協力の入場優待券による動物園の無料入園、映画上映などが行われた。(参加者：9,000 名…上野警察署及び主催者集計)

本会は、実行委員会構成団体としての役割(場内アナウンス等)の他、子供広場での『動物お絵描きコーナー』及びパネル展コーナーでの『マイクロチップによる個体識別措置事業の展示』を日本獣医師会の協力を得て実施した他に、「平成 20 年度日本動物児童文学賞表彰式」を実施した。

イ 9 月 23 日(火・秋分の日) 午後 1 時～同 5 時

第 2 日目の「動物愛護シンポジウム“飼う前に考えよう～動物への責任、社会への責任～”」は基調講演及びパネルディスカッションが行われ、それぞれの立場から見た現在の問題点・今後の課題について情報提供があった。(参加者：283 名…参加者名簿による)

【基調講演】 講師 小方 宗次 麻布大学附属動物病院副院長
「 まもれますか？ペットの健康と安全 」

【パネルディスカッション】

コーディネーター 小方 宗次 麻布大学附属動物病院副院長

パネリスト(4名) ・水越 美奈 日本獣医生命科学大学助教

「臨床動物行動学からみるペットの健康と安全」

- ・植田 明浩 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室長
「ペットの健康と安全を守るための取組み・ペットフード安全法とマイクロチップ」
- ・廉林 秀規 東京都動物愛護相談センター多摩支所長
「東京都の動物愛護管理行政の現場から」
- ・大島 誠之助 日本ペット栄養学会理事、獣医学博士
「安全なペットの食事、食材を考えよう！」

ウ 参加者

2日間 延べ9,283名の参加を得た。

エ 中央行事実行委員会：委員長・中川 志郎 事務局：(財)日本動物愛護協会

実行委員会構成団体

（環境省 東京都 東京都台東区
(財)日本動物愛護協会 (社)日本動物福祉協会 (社)日本愛玩動物協会
(社)日本動物保護管理協会 (社)日本動物園水族館協会
(社)東京都家庭動物愛護協会 その他協賛各団体・各社

なお、この行事に対する本会関係の団体として、(社)中央畜産会、(社)日本動物用医薬品協会、ノバルティスアニマルヘルス(株)(旧三共ライフテック株)、共立印刷(株)に協力を呼びかけそれぞれ協賛を得た。

(3) 地方行事などの後援

平成20年度も、正会員の実施する動物愛護週間行事の後援・協賛を行った。

【動物愛護週間行事の後援・協賛】(順不同)

- (社)静岡県動物保護協会……………「動物愛護フェスティバル静岡2008」
- (財)滋賀県動物保護管理協会…「2008 動物フェスティバル」
- 長野県動物愛護会 ……「動物愛護フェスティバル2008 インいいだ」
(動物愛護フェスティバル2008 インいいだ実行委員会)
- (社)広島県獣医師会……………「どうぶつ愛護のつどい」(広島県動物愛護センター)

3 地区活動の推進と組織の強化活動

正会員の行う動物愛護管理に関する地域活動の一層の推進を図るため、各種資料の提供等に努めるとともに、動物愛護管理の普及に関心を寄せる特別会員の加入については、会誌「生きる仲間」等に会員募集広告の掲載、動物愛護週間中央行事会場などにおいて

の会員募集掲示やチラシ等を配布するなどして、会員の加入促進に努め、平成 20 年度は特別会員 B (個人) 1 名の加入を得た。

4 動物保護管理推進事業

(1) 教材の作成・頒布・推薦

ア 適正飼養教本、視覚教材の頒布、推薦等

地方自治体や動物病院等で動物愛護管理の普及教育に用いる教材として、平成 12 年度から開始した動物適正飼養教本「犬のしつけテキスト」、「猫のテキスト」頒布事業を本年度も継続実施した。

また、平成 16 年度に引続き NHK エデュケーショナル制作の VTR 「趣味悠々 犬は大事なパートナー」に関して、本会では、犬の適正飼養普及啓発のため、本ビデオを推薦し、販売促進や広報活動に協力してきたが、平成 18 年度に本ビデオが DVD 化されたことから、ビデオに併せて推薦し広報活動に協力した。平成 20 年度の教本・視聴覚教材頒布状況は次のとおりである。

平成 20 年度 教本・視聴覚教材頒布状況

(平成 21 年 3 月末現在)

品 名	数 量	合計数量	売上高
犬のしつけテキスト	8,166 冊	13,075 冊	1,372,875 円
猫のテキスト	2,550 冊		
今から考えよう 高齢犬のケア (19 年度頒布開始)	2,359 冊		
NHK ビデオ「犬は大事なパートナー」 第 1 巻	0 本	0 本	0 円
NHK ビデオ「犬は大事なパートナー」 第 2 巻	0 本		
NHK DVD 「犬は大事なパートナー」	0 本		

イ 出版事業(動物販売業者向けマニュアルの出版)

改正動物愛護管理法及び同法施行規則に規定されている動物取扱業者(動物販売業者)の義務である「動物販売時の事前説明」に関し、この制度の円滑な運用に資するため、『動物販売業のための顧客説明マニュアル』(A5判・320頁 定価 1,800円)を平成 18 年 4 月中旬に本会編著により(株)大成出版社から出版している。

(2) 動物愛護功労者等の表彰関係

ア 平成 20 年度環境大臣表彰

平成 13 年度から環境省では、動物愛護管理の推進に関し顕著な功績のあった個人、団体の表彰を行っており、平成 20 年度表彰についても 4 月に都道府県並びに動物愛護 4 団体に候補者の推薦依頼があった。本会としては、正会員から推薦のあった個人 1 名を 7 月に候補者として環境省に推薦した。

全国各団体から推薦のあった候補者(個人・団体)について、環境省内に設けられた表彰選考委員会で審査を行い受賞者が決定され、動物愛護週間中の 9 月 22 日(月)に環境省(東京・霞ヶ関)において表彰式が行われ、表彰状と記念品が授与された。

平成 20 年度の本会推薦者では、山本義晴氏(静岡県)が環境大臣賞を受賞された。

これまでの受賞者数は次のとおりである。

年 度	受賞者総数	受賞者内訳
平成13年度	6 人	個人 4 ・ 団体 2
平成14年度	4 人	個人 4
平成15年度	5 人	個人 4 ・ 団体 1
平成16年度	8 人	個人 8
平成17年度	9 人	個人 7 ・ 団体 2
平成18年度	7 人	個人 6 ・ 団体 1
平成19年度	5 人	個人 5
平成20年度	7 人	個人 6 ・ 団体 1

イ 動物愛護論文、作文、図画・絵画コンクールの実施と優秀作品の表彰

国民の間に広く動物愛護・適正飼養について理解と関心を深める動物愛護週間行事の一環として、正会員から推薦された動物愛護功労者及び動物愛護「私の意見」論文、動物愛護作文、図画・絵画の優秀作品(者)について、本会から推薦正会員を通じて表彰を行った。

本会会長賞の贈呈は次のとおりである。 ()内は平成 19 年度実績

- 【動物愛護功労者】……………11 個人(8 個人・1 団体)
- 【動物愛護「私の意見」論文コンクール】…該当なし (2 作品)
- 【動物愛護作文コンクール】…………… 8 作品 (21 作品)
- 【動物愛護図画・絵画コンクール】……………23 作品 (34 作品)

○ 動物愛護管理功労者会長表彰(順不同) 【11 個人】

(社)和歌山県獣医師会(2 個人)

(社)横浜市獣医師会(1 個人)

(社)静岡県動物保護協会(2個人) (社)長崎県獣医師会(1個人)
(社)石川県獣医師会(1個人) (社)岡山県獣医師会(1個人)
(社)埼玉県獣医師会(2個人) (社)北海道獣医師会(1個人)

○ 動物愛護論文・作文・図画絵画コンクール会長表彰(順不同) 【31 作品(者)】

(社)広島県獣医師会(1 作品) 愛知県動物保護管理協会(1 作品)
(社)新潟県動物愛護協会(4 作品) (社)北九州市獣医師会(4 作品)
(社)石川県獣医師会(6 作品) (社)山梨県獣医師会(3 作品)
(社)静岡県動物保護協会(4 作品) (社)北海道獣医師会(4 作品)
(社)岐阜県獣医師会(4 作品)

なお、図画絵画コンクールの優秀作品は会誌「生きる仲間」の表紙や日本動物児童文学賞の作品募集用ポスターに採用し会員等に紹介している。

5 日本動物児童文学賞関係事業

本賞は次代を担う子供たちが、正しい動物愛護思想を身につけることを願い、動物愛護に関するより良い文学作品を世に送り出すことを目的として平成元年度に設立し、毎年実施している。

(1) 作品募集、審査、表彰

第20回は前回に引き続き、環境省および文化庁の後援並びに株式会社損害保険ジャパンと大日本住友製薬株式会社の協賛を得て実施した。

ポスター、公募専門誌等に広報記事の掲載を依頼する等により作品を募集した結果、全国から85名・93作品(第19回:70作品)の応募作品があり、この中から1次審査により、特に優秀な作品15作品を選び出し、さらに7月31日(木)開催の第2次審査会で審査の結果、下記入賞作品を決定した。なお、入賞者は動物愛護週間中央行事の中で表彰すると共に、大賞・優秀賞作品を会誌「生きる仲間特集号(第20回日本動物児童文学賞・受賞作品集)」として発行し、会員をはじめ教育機関、動物愛護関係機関等に配布して、本事業の目的である「動物愛護に関するより良い文学作品を多く世に送り出す」ことに努めている。

(2) 入賞作品：第20回日本動物児童文学賞

ア 動物児童文学大賞・環境大臣賞(1名)…〈賞状・記念品・副賞30万円〉

「プリン」

山田 士朗(神奈川県)

【大賞作品のあらまし】

競走馬の生産牧場長の主人公が、社会科見学に来ている子供達に対して、自分がこの仕事をやるようになったきっかけの馬の一生の思い出を振り返りながら語る作品。馬と子供との愛情あるふれあい、生涯にわたる心の交わり、成長ぶり等が愛情深くうまく描かれている。馬の福祉についても触れられており、全体的にあたたかさを感じる作品。

【審査講評】

本年度、第20回日本動物児童文学賞には93作品の応募があった。多種多様な登場動物を主軸として、人と動物の共生やふれあい、適正飼養、終生飼養等、テーマは多彩である。近年、作品に登場する動物は犬や猫にとどまらず、野生動物や鳥、小動物、昆虫などにスポットをあてる作品が増えてきている。また、環境問題についての社会的な関心の高まりを反映し、環境破壊や自然保護を交えて、広義には自然と人間との関わりについて示唆する作品も増えている。いずれの作品も、人と動物の関わり方、それをとりまく世相や社会、環境等の変化がうかがえる。専門的な知識の裏付けがうかがえる作品は、流石に読み応えがあった。また、作者自身の実体験をもとにしていると思われる細やかな描写や、心の動きをたどる素朴な表現は、読者の共感を呼ぶ。

イ 動物児童文学賞優秀賞(2点) …<賞状・記念品・副賞20万円>

「 サスケ またいつか会おう 」	滝上 湧子	(東京都)
「 アフリカからのEメール 」	佐藤 良彦	(長野県)

ウ 動物児童文学賞奨励賞(5点) …<賞状・記念品・副賞5万円>

「 レッツゴー ロック 」	高村たかし	(新潟県)
「 最初の一步 」	高野 麻由	(埼玉県)
「 子ガメ孵る日 」	竹田 弘	(沖縄県)
「 おばあちゃんとシロのあいだ 」	佐々木好美	(千葉県)
「 ふりかえった犬 」	中村 君江	(福島県)

6 広報宣伝事業

(1) 会誌「生きる仲間」の発行等

会誌「生きる仲間」は、本会の事業取組み状況とともに国の動き、ニュース等についての紹介と解説を加えた内容を掲載し、会員に対し動物愛護・適正飼養の普及啓発に関する情報の提供を図ってきた。平成20年度は、第47号で「新公益法人制度施行に当っ

ての日本獣医師会と合併の方向」及び「第 38 回通常総会概要・平成 20 年度第 1 回理事会概要」、「平成 20 年度動物愛護週間中央行事実施結果」並びに「第 20 回日本動物児童文学賞」等を中心とした内容で発行した。

(2) その他の一般広報広聴活動

平成 20 年度は、昨年度に引続き、国その他関係団体等から入手した動物愛護管理の普及・啓発に関するポスターおよび各種資料等を正会員に配布するなど、動物愛護思想の普及啓発に努めるとともに、市民からの適正飼養を始めとした動物愛護管理に関する各種の問合せ・相談等に応じた。

(3) 団体との情報交換

動物愛護管理の普及啓発のために、全国動物愛護推進協議会、動物 ID 普及推進会議をはじめとした関連団体との情報交換に努めた。

7 動物 ID 情報管理事業

(1) マイクロチップ普及推進事業の取組

犬、猫等の動物の飼養者の飼養責任と義務を明確にするため、マイクロチップによる犬、猫等の動物の個体識別（「動物 ID」）を普及・推進するとともに、遺棄され又は迷子となった動物に対する殺処分等の未然防止や、当該動物及び自然災害時等において飼養者不明となった動物の飼養者の特定を容易にする等、動物福祉の増進並びに人の生命、身体及び財産に対する侵害の防止に寄与するために取り組んでいる事業である。

ア A I P O の設立の経緯と本会の管理・運営する動物 ID システム事業

平成 14 年 12 月に「動物 ID 普及推進会議(A I P O)」が設立され、(社)日本獣医師会のマイクロチップによる動物個体識別の普及推進事業を A I P O が引継ぎ実施することとなった。この事業の内、チップデータの登録、照会、管理等のシステム事業を A I P O 事務局である本会が事業(特別会計事業)として実施してきた。

イ A I P O データ登録

平成 17 年度末に動物販売業者(1 社)が事前にチップを埋込んだ犬・猫の販売を開始、また、平成 18 年度以降には新たに 4 社の動物販売業者が同様に犬・猫の販売を開始し、これに伴うチップデータを本会データベースに登録し管理を行うことになり登録頭数が飛躍的に伸びている。平成 20 年度の登録実績は、犬: 73, 259 頭(累計・

176,677 頭)、猫 : 12,712 頭(累計・38,599 頭)、その他 : 316 頭(累計・2,099 頭)、
合計 : 86,287 頭(累計・217,375 頭)であった。

(2) データ登録の実績等の推移

平成14年度～平成20年度までの「登録実績の推移」は以下のとおりである。

(上段：当該年度登録数、下段：累計数、単位：件)

年 度		犬	猫	その他	合計
平成14年度	末現在登録数	513	1,621	10	2,144
	(累計)	513	1,621	10	2,144
平成15年度	登録数	526	1,112	10	1,648
	(累計)	1,039	2,733	20	3,792
平成16年度	登録数	1,020	1,527	11	2,558
	(累計)	2,059	4,260	31	6,350
平成17年度	登録数	2,140	1,968	31	4,139
	(累計)	4,199	6,228	62	10,489
平成18年度	登録数	16,883	4,094	301	21,278
	(DSP統合数)	22,359	7,889	784	31,032
	(累計)	43,441	18,211	1,147	62,799
平成19年度	登録数	59,977	7,676	636	68,289
	(累計)	103,418	25,887	1,783	131,088
平成20年度	登録数	73,259	12,712	316	86,287
	(累計)	176,677	38,599	2,099	217,375

※ 平成18年12月末日をもって、大日本住友製薬(株)管理のデータベースが社団法人日本動物保護管理協会管理データベース(通称:AIPOデータベース)と統合し、現在は社団法人日本動物保護管理協会管理データベースに一元化され国内唯一の民間データベースとなっている。

8 環境省事業の請負(「平成20年度動物個体識別措置推進事業」の請負)

「普及啓発事業」として、①『マイクロチップの普及推進の先進的地域におけるモデル事業』、②『マイクロチップリーダー(読取器)の実証事業』、③『マイクロチップ普及ポスターの作成』及び「動物個体識別情報源情報データベース運用事業」を請け負った。

(1) 東京都におけるモデル事業の実施

ア 譲渡動物へのマイクロチップの埋込み

東京都及び東京都動物愛護相談センターの協力を得て、引取りまたは収容した動物の新たな飼い主への譲渡事業に際し、譲渡する犬、ねこにマイクロチップの埋め込みを行い、併せてマイクロチップに関するアンケートを実施した。

イ マイクロチップリーダーの実証事業

東京都動物愛護相談センターの協力を得て、国内で販売されているマイクロチップリーダーの内、読み取り性能の高いと思われるハンディリーダー及び据置型リーダーについて実証を行った。

ウ マイクロチップによる所有明示措置の普及啓発

普及用グッズを作成し、東京都動物愛護相談センターの協力を得て、適正飼養講習会等において配布する等所有明示措置の普及啓発活動を行い、併せて、マイクロチップに関するアンケートを実施した。

エ 都市公園でのマイクロチップ効果のPR活動

(社)日本獣医師会及び(社)東京都獣医師会の協力を得て、比較的飼い主の多く集まる公園(駒沢オリンピック記念公園、都立砧公園)において、マイクロチップの効果について資料を使用したPRを行い、併せて、マイクロチップに関するアンケートを実施した。

(2) 栃木県におけるモデル事業の実施

ア マスメディアを使用したマイクロチップ普及啓発の実施

栃木県及び(社)栃木県獣医師会の協力を得て、地方テレビ局、地方ラジオ局を使用し、マイクロチップによる動物の所有明示措置の広報活動を実施した。

イ マイクロチップによる所有明示措置の普及啓発の実施

リーフレット及びグッズを作成し、栃木県及び栃木県動物愛護指導センター並びに(社)栃木県獣医師会の協力を得て、適正飼養講習会等において配布する等マイクロチップによる所有明示措置の普及啓発を実施した。

ウ 譲渡動物へのマイクロチップの埋込み

栃木県及び栃木県動物愛護指導センターの協力を得て、引取りまたは収容した犬の新たな飼い主への譲渡事業に際し、譲渡する犬にマイクロチップの埋め込みを行い、併せてマイクロチップに関するアンケートを実施した。

(3) 横浜市におけるモデル事業

リーフレット及びグッズを作成し、横浜市及び(社)横浜市獣医師会の協力を得て市民等に配布し、マイクロチップによる所有明示措置の普及啓発を実施し、併せて、マイクロチップに関するアンケートを実施した。

(4) マイクロチップ普及用ポスター作成

飼養動物全般に対し、さらなるマイクロチップ等の普及を図るためのポスターを作成し、地方自治体、動物病院、関係団体、ペットショップ等に配布した。

(5) 個体識別情報源情報データベースシステムの運用

環境省において平成 18 年度に開発し、平成 19 年度に改良した特定動物に関する個体識別措置情報源情報データベースシステムのデータ更新を行い、併せて、本システムの運用を行なった。

9 動物愛護管理等に関する協議会等への参加

(1) 緊急災害時動物救援本部への参画

平成 8 年、動物愛護精神および人間と動物の絆を守る観点から将来起こりうる天災・人災に際し、被災した動物の救護を目的として本会及び(財)日本動物愛護協会、(社)日本動物福祉協会、(社)日本愛玩動物協会により『緊急災害時動物救援本部』が設置された。平成 10 年度からさらなる活動体制の強化のため、(社)日本獣医師会が参画し、今後、緊急災害時の円滑な救護体制を確立することとなった。

なお、平成 20 年度は緊急災害時動物救援本部の活動を要する案件は特になかった。

(2) 動物との共生を考える連絡会

平成 12 年 10 月 1 日に「動物の愛護及び管理に関する法律」の周知等の活動を進めていくために発足した、「動物との共生を考える連絡会」に、本会も発起人の一員として参加している。

<平成 20 年度：連絡会への参加>

平成 20 年度は、6 月に開催された「シンポジウム より良い動物愛護法を目指して」及び「動物がどのような状況で飼育されているかをチェックする『5 つの自由(解放)に基づく動物福祉の評価表』」の作成等に参加した。

(3) 全国動物愛護推進協議会

平成 12 年末に改正動物愛護管理法が施行されたが、この円滑な運用には官民一体となった取り組みが不可欠であることから、本会を含め、国の許可を得て設立された全国団体である 4 つの動物愛護団体（(財)日本動物愛護協会、(社)日本動物福祉協会、(社)日本愛玩動物協会、(社)日本動物保護管理協会）は、国及び都道府県の政策に協力し、法の周知徹底と推進を図ることを目的として、平成 13 年 3 月 14 日に「全国動物愛護推進協議会(事務局：(財)日本動物愛護協会)」を設立した。

<平成 20 年度動物愛護推進協議会への参加>

協議会の当面の重点事業は、動物愛護推進員の資質の向上に関する事、ならびに動物の個体識別に関する事とし、平成 20 年度も、マイクロチップによる個体識別普及推進の取組みとして、AIPO と連携して動物愛護週間中央行事でのマイクロチップ及びリーダーに関するパネル展示に協力するなど普及活動を行った。

(4) 動物 ID 普及推進会議 (Animal ID Promotion Organization : 略称 AIPO)

全国動物愛護推進協議会（公益法人として国の認可を得て設立されている動物愛護 4 団体で構成）と(社)日本獣医師会は、マイクロチップによる動物個体識別の普及推進を図るための相互連携協力体制の確立を目指して、平成 14 年 12 月に「動物 ID 普及推進会議 (AIPO)」が発足し、本会が事務局を担当してきている。

<平成 20 年度：AIPO への参加>

平成 20 年度は、事務局として動物愛護週間中央行事会場及び防災訓練会場並びに各種イベント会場でマイクロチップ普及用パネルの展示及びリーフレットの配布を行なうと共に、マイクロチップ普及啓発用ポスターを 23,500 部作成し、動物 ID 普及推進会議構成団体をはじめ動物病院、関係団体等に配布しマイクロチップによる動物個体識別措置についての普及啓発を図った。

(5) ISO 規格動物用電子タグ協議会への参画

本協議会は、『国内における ISO11784/11785 規格の動物用電子タグの円滑な利用を図ることを目的』に平成 17 年 6 月に設立されたもので、動物 ID 普及推進会議(事

務局)としては平成17年の設立時から構成員となり参画している。なお、この協議会でいう電子タグには、ISO11784/11785規格に準じた『動物の生体に埋込むマイクロチップ』を含むものとしている。

<平成20年度：ISO協議会への参加>

5月30日開催の「通常会議」、10月16日開催の「動物の電子識別に係るISO年次会議等の報告会」等に動物ID普及推進会議事務局として参加した。

11 他団体への後援など

平成20年度に申請があり、後援をした事業は次のとおりである。(申請順)

- ・(NPO Knots) りぶ、らぶ、あにまるずフェスティバル2008『ENJOY SPORTS with DOGS』
(平成20年11月開催:後援)
- ・(NPO Knots) りぶ、らぶ、あにまるずシンポジウム2008『動物看護師の役割』
(平成20年7月開催:後援)
- ・全国ペット小売業協会「わんわんにゃんにゃん母子手帳」
(平成20年5月:発行)
- ・((社)日本動物病院福祉協会)「JAHA年次大会・創立30周年記念大会」
(平成20年7月開催:後援)
- ・昭和館 特別企画展「戦中・戦後をともにした動物たち」
(平成20年7月開催:後援)
- ・(NPO Knots)「神戸アニマルケア国際会議」
(平成21年12月開催予定:後援)
- ・((社)日本獣医師会)「2008動物感謝デーin Japan “World Veterinary Day”」
(平成20年10月開催:後援)
- ・((社)ジャパンケネルクラブ)「ジャパンドッグフェスティバル2008」
(平成20年12月開催:後援)
- ・((財)日本動物愛護協会)「第1回日本動物大賞」
(平成20年8月～同年12月:後援)
- ・(日本ペット用品工業会他)「2009 ジャパンペットフェア」
(平成21年3月:後援)
- ・((社)日本愛玩動物協会)「創立30周年記念シンポジウム」
(平成21年5月:後援)